平成29年度　大阪府堺市保健医療協議会

（第2回　医療部会）議事概要

日時：平成２９年１１月２０日（月）14:00～16:00

場所：堺市役所　本館地下１階　大会議室（西側）

■議題１　「近畿大学医学部附属病院の移転について」

■議題２　「第６次大阪府保健医療計画（堺市圏域版）の評価について」

■議題３　「第7次大阪府保健医療計画（府域版）の策定について」

■議題４　「第7次大阪府保健医療計画（堺市圏域版）の策定について」

■議題５　「その他」

<大阪府堺市保健医療協議会事務局より資料説明>

**（主な質問・意見等）**

○泉ヶ丘に移転開院する予定の本院、既存の大阪狭山の本院・堺病院をどうするかについては近大内で調整中とのことだ。統合再編計画は、平成26年に大阪府、堺市、近大の3者でプレス発表されているが、3年の経過、計画が変わったということだ。

（近畿大学付属部病院から）

○当初、堺病院は廃院予定であったが、地域住民、医師からの強い要望があり存続について、検討してきている。研修医制度、新専門医制度がスタートし、医師数は南大阪全体が目減りしている現状にある。現在でも堺病院医師の退職がなだれ現象を起こし、何とか存続するにはどうすればよいか検討中である。

○当初、本院（大阪狭山）に300床残すということで、この中には救急病棟として入っている脳卒中センター、救急救命センター等救急部門があり、中核的な役割を果たしている。新病院に移転するとなると医療圏越えになるが、南河内医療圏全体の救急医療の在り方について、大阪府は医療圏単位の医療の質をどう思うか。

○2次医療圏の線引きを変えるとなると救急、災害などを含め、かなり大きな問題をはらんでくる。

○がんでは、第6次計画策定時の現状と課題に、大阪府と比較して男性が低く、女性が高いとなっている。現在のところを見ると、現状と課題に、がんの死亡率が大阪府と比較して、男性も女性も共に低いとなっている。これを計画どおりと表現して良いのかどうか。

○7次計画の地域医療、在宅の部分でも、同じように課題があると表現されている。大阪府と比較して成果があった部分についての分析があれば計画どおりということでも良いと思うが、7次にあまり反映されているように思えない。6次はもう少し謙虚に見ていくべきではないか。

**（主な大阪府及び堺市の回答）**

○本来はこの医療部会で、近畿大学の統合再編について、国との協議事項について意見をお願いするところであった。現行、本院（大阪狭山市）一般病床919、精神10床、堺病院一般440床だが、これを当初計画では本院を泉ヶ丘に移転、（一般1000床、精神20床）並びに大阪狭山市に一般300床の急性期機能を持った病院を残し、堺病院は廃院ということであった。これに伴い厚生労働省と二次医療圏越えの移転という形で協議を進めてきていたが、最終段階になって近大から再編計画を変更させて欲しいとの申出があった。そのため、現在、この作業を一時的にストップさせている。

新病院に、高度急性期の医療機能を移転することは決まっているが、現在、大阪府として移転跡地の分院、堺病院をどうするのか、近畿大学としての最終報告を求めているところである。厚労省の協議事項については二次医療圏越え、又は医学部併設特例がある。現在、大阪府としては学校法人近畿大学に文書を持って最終回答するよう求めているところ。

○南河内圏の救急、災害、母子・周産期、がん、の機能が手薄になることは府としても懸念している。今後二次医療圏単位でどのように整備していくのか、近大の報告を待って検討していきたいと考えている。災害は広域的に考えられるが、三次救急については、府救急対策審議会等でのご意見を踏まえながら、どのように整備していくか今後の検討課題になると認識している。

○数値としては府全体の平均と比べても追いついていないことは認識している。その点は課題として、今後の取組につなげていきたいと考えている。「概ね計画どおり」については、男女共に率では大阪府には追い付いていないが、堺市としては減少しているというところを評価している。計画どおりの幅をどこまで取るかということはあるが、4つのうちどこを取るかということで、事務局案としては「おおむね計画どおり」に該当するとさせていただいた。

○評価が4つしかないというところが厳しいところでもある。「概ね計画どおり」の幅が広いこともあり、いただいたご意見を、7次計画に反映させられるようにしたい。

以上